

事務事業名	市道里熊小原線道路改良事業		所属部	建設部	所属課	建設工務課
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉		所属G	道路改良G	
	施策名	〈12〉道路の整備		担当者名	内田 貴宏	
	目的・対象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。		
	基本事業	〈034〉道路の新設・改良		電話番号	0854-40-1063 (内線) 2473	
目的・対象	道路利用者	意図	安全で便利に移動できる。			予 算 科 目
				会 計 款	大 事 業	大 事 業 名
				0:1:4:0	0:3	市道道路整備事業
				項 目	中 事 業	中 事 業 名
				1:0:1:5:0:2		交付金道路整備事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市道及び市道利用者	道路利用者の利便性を高め、住民生活の向上を図る
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R4 年度 ~ R8 年度)	本路線は三刀屋町給下地区と主要地方道出雲三刀屋線を繋ぐ道路であり、地域住民の生活道路として、また通学路として重要な役割を担う路線である。令和3年7月の豪雨災害により、三刀屋川にかかる橋梁が流出し、道路が寸断されたため、早期の整備が望まれている。幅員4.0mの橋梁を整備することで道路利用者の安全性と利便性の確保が図れる。整備延長 L=300m 幅員 W=4.0m
④ 主な活動 R4年度実績(R4年度に行った主な活動) ・橋梁測量設計業務 ・橋梁地質調査業務	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 設計時に工法検討によるコスト縮減を図り事業費の抑制に努めている。 県河川三刀屋川に架橋することから、事前に県協議を行い設計条件に反映させている。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 整備率(供用延長/整備計画延長)	%			0.0	0.0
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)		② コストの推移		単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
【地方債】過疎債 (委託費):13,200千円(前払) (合計):13,200千円	財源内訳	国庫支出金	千円				7,458	31,107
		県支出金	千円					
		地方債	千円				5,700	23,800
		その他	千円					
		一般財源	千円				42	148
事業費計		千円		0	0	13,200	55,055	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	令和4年度は橋梁の測量設計及び地質調査を行ったが、島根県との河川協議に時間を要したことに伴い、地質調査・測量設計とも不測の時間を要し、令和5年度に繰越となった。
② 事業実施するうえでの課題	目標の達成には整備計画に基づき着実に事業進捗を図る必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	事業効果の発現には予算措置が必要となるが、市財政の圧迫に直結することから、道路整備計画に基づいた取り組みが重要となる。